

令和4年度第1回安城市総合計画審議会 議事（要旨）

日 時	令和4年6月24日（金） 午後2時30分～午後4時30分	
場 所	市役所大会議室	
出席者	委 員	加藤研一会長、太田千尋副会長 鈴木健司委員、安田孝美委員、久恒美香委員、安藤正康委員、 石川誠委員、岩月豊委員、加藤宣子委員、河田光司委員、戸 田こず恵委員、富田清治委員、近藤裕己委員、山本道生委員 （WEB出席） 酒井麻利子委員、柴田知幸委員
	事務局	市長、副市長、教育長、企画部長、行革・政策監、 関係部次長、健幸=SDGs課長、健幸=SDGs課長補佐、 健幸=SDGs課職員
次 第	1 市民憲章唱和 2 市長あいさつ 3 諮問 4 議題 （1）第9次安城市総合計画策定について （2）第8次安城市総合計画（後期計画）の実績報告について （3）第2期安城市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実績報告につい て （4）地方創生推進交付金・拠点整備交付金地方創生応援税制（企業版 ふるさと納税）に係る事業の実績報告について 5 その他	

1 市民憲章唱和

2 市長あいさつ

皆さん、こんにちは。本日はご多用の中、令和4年度 第1回安城市総合計画審議会にご出席いただきまして、誠にありがとうございます。

本市は平成28年度から、現在の行財政8カ年計画である「第8次安城市総合計画」のもとで、目指す都市像「幸せつながる健幸都市 安城」の実現へ向けたまちづくりを進めてまいりました。

令和2年度からは後期計画をスタートさせ、ケンサチまちづくりは国際社会の共通目標であるSDGsで目指す世界の実現にもつながるものとして、「ケンサチはSDGs」のローガンのもと、公民連携の取り組み強化などにより、さらに力強く推進しているところです。本日の審議会では、この第8次安城市総合計画に関する実績報告もさせていただきます。

さて、近年のコロナ禍やウクライナ危機、そしてこの地域では明治用水の漏水事故と、この総合計画策定時には予想もされなかった危機的な事態が次々に発生してきています。また、地球環境問題に起因する自動車のEV化が世界的に進むことは、本市の地域産業や市民生活、ひいては自治体経営にまで大きな影響を与えるとともに、地域社会の先行き不安の要因ともなっています。

しかしその一方で、三河安城地域でのプロバスケットボールBリーグ「シーホース三河」のホームアリーナ建設や、大東町地内のザ・モール跡地での三井不動産株式会社による商業施設開発など、市内での民間による大型投資の活発化は、本市の将来に向けての明るいニュースであり、これまで長年にわたるまちづくりの成果が評価された結果と光栄に存じています。

このように先行きを見通しにくい時代の中で、今年度より新たに第9次安城市総合計画の策定に着手することとなっています。新たな民間投資によって生まれ変わってゆくまちの活力を、市民1人ひとりの幸せの実感、まちの魅力の向上への好循環につなげ、市民の皆さんと地域産業、そして本市に関わる全ての皆さんにとって、明るい希望が抱けるようなまちの将来像を示す指針にしていきたいと思います。

総合計画審議会委員の皆さんにも、こうした新たな計画策定に関してのご協力いただきたいと考えております。ご理解のほどお願い申し上げます。

以上簡単ですが、私からのご挨拶とさせていただきます。本日もどうぞよろしくお願いたします。

3 諮問

(市長から加藤研一会長へ諮問書の交付)

4 議題

(1) 第9次安城市総合計画策定について

【加藤研一会長】

みなさん、こんにちは。それではさっそく議事に移りたいと思います。

本日は、(1) 第9次安城市総合計画策定について、(2) 第8次安城市総合計画(後期計画)の実績報告について、(3) 第2期安城市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実績報告について、(4) 地方創生推進交付金・拠点整備交付金地方創生応援税制(企業版ふるさと納税)に係る事業の実績報告について、の4つの議題についてご審議いただきます。

それでは、議題(1) 第9次安城市総合計画策定について、事務局より説明をお願いします。

(事務局説明)

【加藤研一会長】

はい、ありがとうございました。

ただいま事務局より第9次安城市総合計画策定について説明がありましたが、ご意見、ご質問等ございましたらお願いします。

(質問・意見なし)

【加藤研一会長】

それでは、特にご意見はないようですので私から。今年度から第9次総合計画の策定がスタートするということでございますが、総合計画は自治体経営の最重要に位置づけられる計画であるとともに、今後8年間の長期的なまちづくりの指針となる大変重要な計画であります。

事務局からの説明にもありましたが、市には市民討議会やアンケートを通じて市民の声を聞きながら、今後のまちづくりのあり方を検討していただきたいと思います。

以上で、議題(1)第9次安城市総合計画策定について、を終わります。

続きまして、議題(2)第8次安城市総合計画後期計画の実績報告について、事務局より説明をお願いします。

(2) 第8次安城市総合計画(後期計画)の実績報告について

(事務局説明)

【加藤研一会長】

ただいま事務局より、第8次安城市総合計画後期計画の実績報告について説明がありましたが、ご意見ご質問ございましたらご発言願います。

【安藤正康委員】

障害者への福祉が充実してるかと感じている人の割合というのがございます。それから、ひとり親家庭福祉に対する満足度、この二つがございますけど、これの母数というのは、市民全体でしょうか。それとも、例えば障害者への福祉については障害者の方に尋ねているのでしょうか。あるいはひとり親家庭のときはひとり親家庭の方に尋ねているのでしょうか。

【健幸=SDGs課長】

お答えします。

母数でございますが、市民3,000人のアンケート、これを行った者が母数となっております。

【安藤正康委員】

市民全体を対象に3,000人をピックアップしてということですね。分かりました。それから、市民活動センター登録団体数というのがありまして、中間目標400団体に対して、実績が451団体であるということで推移しております。

私どもボランティア連絡協議会として、長年我々が苦勞してるのはボランティア活動団体というのは、安城市のボランティアセンターに登録している団体数、それからボランティア数、いずれも徐々に減少傾向にあります。

残念ながら私どもボランティア連絡協議会もいろいろ努力していますが、減少傾向とい

うのは見られます。これは西三河ボランティア連絡協議会全体に通ずるようです。

だから、第9次総合計画を計画するに当たってボランティアという指標も、何らかの形で考えていくということも検討してほしいということが意見です。

【健幸=SDGs 課長】

御意見として承ります。よろしくお願いいいたします。

【近藤裕己委員】

この指標という目標が達成されることで私たち市民にどんないいことがあるかということをも市民が分かっているかということがあると思います。まずは、どんな目標があるのかを市民が知ることが大事で、知らないとも目標が達成されても実感がないと思うので、まずは知ってもらうことから始めることが必要だと思います。

もう一つ、人とつながることが老後の安心にもつながるので、人とつながるということが一番大切だと思います。人とつながることが幸せな人生という大きな目標にもつながっていくことになれば、市民の私たちもそれに向けて協力していこうというふうになる。そうしないと一生懸命やっている人を見ても「一生懸命やってるな」としか思わないことになってしまうと思います。やっぱりみんなで一緒に頑張るって幸せになるんだということを、この指標を通して見えるようにできれば、頑張りたいという気持ちになるので、計画を策定した段階から、どうしてその指標をやるのかというところをしっかりと周知したうえで取り組むことに意義があると思います。指標の数値についても、市民側から提案された数値を取り入れたらすれば、私たち市民のやりがいにもつながってくるかと思っています。

【行革・政策監】

ご質問ありがとうございます。

まず、これらの指標につきましては計画の策定の段階で、また先ほどのスケジュールにもお示ししたとおり、次期計画の策定におきましても、審議会の委員の皆様にご参加をいただきながら一つ一つの施策に対してどのような目標値がふさわしいのかを審議して決めてまいります。その上で、目標に向けた取組みを進めていくためにどのような計画がふさわしいのかについても、審議会の皆様に検討いただき、計画としてまとめます。

ご指摘がございましたとおり、まだまだアンケートにおいては、市民の認知度が低いということでこれも我々行政の課題と考えております。次期総合計画は、そのような課題も踏まえながら皆様とともに、より市民の皆様にご理解をいただけるような計画を作ってまいりたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいいたします。

【加藤研一会長】

こういった目標や実績については、私も多くの市役所の部署とも関わりがある中で、委員会のような場でこういうデータが出てきたときにはいろいろ意見もありますし、感じたことを言えるんですけど、直接こういったテーマに関わりがあることをやってないとなかなかイメージができないということも感じます。

【山本道生委員】

教育に関してなんですけれども、児童生徒の授業が楽しいと感じる割合が減った理由としてタブレット端末の操作で時間がとられてしまったということと、活用の状況と目標がずれてしまったということで比較ができなくなっているということなんです、市として、ICTの教育に関して例えば支援員を呼ぶであったりとか、学外の方と連携を図ったりして目標に対してプラスになるような取り組みというのを今実施したり、計画は何かされているのでしょうか。

【教育長】

ありがとうございます。

タブレットについては、子どもたちもまずは使ってみようという状況であります。

そういった状況において、学校で使う中で気づいた点、持ち帰りを進める中で保護者の方からいただく意見や課題について、市として一つ一つ研究しております。また、学校の横の連携を取って課題や、やってみてよかったことを共有する取り組みをしています。

【加藤研一会長】

それではご意見も出尽くしたようですので、本日委員の皆様から出された意見を踏まえ、第8次安城市総合計画の目指すまちづくりの実現のための取り組みを進めていただきたいと思えます。

以上で、議題（2）第8次安城市総合計画後期計画の実績報告について、を終わります。

続いて、議題（3）第2期安城市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実績報告について、事務局より説明をお願いします。

（3）第2期安城市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実績報告について

（事務局説明）

【加藤研一会長】

ただいま事務局から第2期安城市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実績報告について、説明がありましたが、ご意見、ご質問ございましたらご発言願います。

【安藤正康委員】

指標について今お伺いしましたが、これはこの結果をもってどういうことを言えるのでしょうか。教訓のような今後どうしていくかというまとめのようなものはあるのでしょうか。

【行革・政策監】

ご質問ありがとうございます。

まち・ひと・しごと創生総合戦略は、ただいまご説明を差し上げましたとおり、総合計画と一体的に推進しているものでございまして、特にまち、ひと、しごと、という側面をクロージアアップした指標を設けてその進捗を図っております。つまり総合計画の5Kと、このまち、ひと、しごと、というものを関わり合わせながら計画を進めることによって、さらなる

指標の向上を図り、施策が進んでいくものと考えております。現在、向上している指標がかなり増えて半分以上の指標になっております。逆に、向上が図られていない指標を残りの期間でどのように上げていくのか、それを施策に反映させるようにしてまいりたいと考えております。

【安藤正康委員】

まち・ひと・しごと総合戦略の理念に対して、どのように向上しているのかというところを一概に言えないと思いますが、指標を見ていると創業者数に関する指標はものすごく伸びていて、一方で向上しているけどほんの少しという指標もある。後退している指標を見ると、これはコロナ禍の影響かなっていう見方もできるので、今回の結果を教訓として、これからの取組をどのようにするのかという全体的なまとめもあるといいと思います。

【行革・政策監】

ご指摘ありがとうございます。

実際の指標の状況を、次にどうつなげるかという部分についても、掘り下げて計画の推進を進めてまいりたいと思います。

【加藤研一会長】

それではご意見も出尽くしたようですので、本日、委員の皆様から出されました意見を踏まえ、今後も引き続き着実に事業を進めていただきたいと思います。

以上で、議題（３）第２期安城市まち・ひと・しごと創生総合戦略の実績報告について、を終了します。

続いて、議題（４）地方創生推進交付金・拠点整備交付金地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）に係る事業の実績報告について、事務局より説明をお願いします。

（４）地方創生推進交付金・拠点整備交付金地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）に係る事業の実績報告について

（事務局説明）

【加藤研一会長】

ただいま事務局から説明がありましたが、ご意見やご質問がございましたら発言をお願いします。

【鈴木健司委員】

日本福祉大学の鈴木です。よろしくお願いたします。

２点ございます。まず、１点目ですが５ページの恋人の聖地の事業について、K P Iで旅行者満足度指数ということで、おそらくアンケートをして、満足度を評価されたと思いますが、この母数はどのような数字なのでしょう。安城市に来られた方だけお聞きして、それを出した割合なのか、そうでないのかについて、まずお聞きしたいと思います。

もう１点については感想めいたことなんですけど、７ページの安城プレミアム商品券の無償配布について、３万４、８８１人の方に商品券を無料配布したということですが、事業費

が2,000万円ぐらいかかっている、ゆうパックで送ったお金だけでかなりの金額になるかなと思います。市民の本音からするとこの事業費を還元した方が市民満足度は上がるのではないかなと思います。例えば、配布するのではなく、取りに来てくださいますようお願いすることも今後ちょっと検討されてもいいのかなと思います。もちろん、その時は周知だとか、取りに行けない人も考慮する必要がありますが、効率的な事業というところから今後検討していただければと思います。

【産業環境部長】

ご質問ありがとうございます。

まず、恋人の聖地の旅行者満足度指数のKPIの母数でございますが、本市はデンパークが恋人の聖地でございますので、デンパークの来園者の方にアンケートをとらせていただきまして、その結果に基づいた数値となっております。

次に、無償配布のプレミアム商品券の事業費のあり方についてご意見いただきまして、ありがとうございます。この無償配布の商品券に限らず、一般のプレミアム商品券等も建設券も含めて、いわゆる事務費がやはりかかっておりまして、それをもっと有効な形で使うことによって、地域の消費喚起であったり、地域経済の活性化につながっていくというところは鈴木委員のおっしゃるとおりだと思いますので、そういった観点を十分考慮に入れながら、今後こういう事業を行う場合は、参考にしていきたいと思います。

【鈴木健司委員】

ありがとうございました。2点目につきましては私にもアイデアがないので、おそらくキャッシュレスでカードなどを使うとかそういう形になるかと思いますが、今後検討していただければと思います。

【安藤正康委員】

産業の多様化推進事業についてですが、具体的にどのような分野でどのような創業があったかという具体的なところを少し示していただいたほうがわかりやすいと思います。どのような人がどのような形で創業されたかというようなことがわかった方がよいと思います。創業したらそれで終わりではなくて、地域の活性化のために産業は非常に大事なものであるため、定着化、活性化していくという方向に進んでいくということ、今後第9次総合計画のときには、さらに進化させていくということ、何か考えてほしいなと思いました。

【産業環境部長】

ご意見ありがとうございます。

創業者数について、もう少しその中身をしっかりと精査した上で、いわゆる経済活性化というものが持続するような、そういう働きかけが必要だというご意見だと思います。

新規創業に関していえば、まず、新型コロナウイルス感染症という大きなインパクトによりまして業態を変えざるを得なかった、そういう外的な要因で業態転換をされた方もいらっしゃいます。例えばサービス業では、エステサロンですとかネイルサロン、美容室だとかそういう業種業態での新規創業が多く見られますので、そうした安城市で開業いただいた方が、今後

もずっと安城で仕事やっていたりするような働きかけと時代に合った支援の仕方はあるのかと思っていますので、そういう息の長い支援のありようというものも考えながら市としてサポートしていきたいと思っていますので、よろしくお願いします。

【安藤正康委員】

私も朝日町の出身で、今は違うところに住んでいますが、昔の仲間に聞くとちょっと商店街は沈んでいるということを知ります。なかなか難しいとは思いますが、創業も含めて活性化していくことを考えてほしいと思います。

【近藤裕己委員】

成果指標に関連して安城プレミアム商品券を、例えば目標達成した人に配布するとか、そういうふうにしてつなげていくと市民の方がちょっとやる気を出してくるかなと。目標を達成したときにその成果として何かそういったものを配れるといいのかなと思います。

また、新型コロナウイルス対応地方創生臨時交付金の内容について、例えば高齢者のタクシーの助成や使用済み紙おむつの回収の事業にこの交付金を活用するのは難しかったのでしょうか。この交付金で対応できそうな事業に思えましたので。

【企画政策係長】

ご指摘いただきましたとおり、様々な事業に対応できる交付金ではありますが、国から各自治体ごとの人口や新型コロナウイルスの感染状況といった指標を踏まえて配分が決められておりますので、報告させていただいた令和3年度の交付金の対象事業としましては、令和3年度に市が実施した新型コロナ対応事業の中で、事業費が大きい、あるいは市民への影響の範囲が広い事業などを選定しまして、決められた配分の中で最大限活用させていただいたというものでございます。

【加藤研一会長】

では、ご意見も出尽くしたようですので、本日委員の皆様から出されました意見を踏まえ、今後も引き続き、事業を進めていただきたいと思います。

以上で、議題（４）地方創生推進交付金・拠点整備交付金地方創生応援税制（企業版ふるさと納税）に係る事業の実績報告について、を終了いたします。

ここで、学識経験者の先生方からご意見をいただきたいと思います。

【安田孝美委員】

まずは、実績報告についてよくまとめられてるのが率直な感想でございます。ありがとうございました。

それから、今日委員の皆様方からも非常に有意義な質問コメント等が出されて非常に意義のある質疑応答ができたのではないかなと感じています。その上で少し個別的な話になってしまいますけれども、いくつかコメントをさせていただきたいと思います。

まずは、全体的に今回コロナ禍の影響がかなりあったということで、それがKPIにも影響してきたと思っておりますけれども、ぜひ、このコロナ禍以外のところでも何か要因があったのかどうかというところも含めて、少し区分けをして分析をしていただけたらとよろ

しいかなと思いました。

それからの個別なところについて、例えば高齢者一般タクシーの助成事業なんかの場合ですと、この利用者のデータ分析がなされているのかというところです。データ分析に関しては今回の報告の中で全てについて感じたところですが、それぞれ数値的な分析はされていきました。実績報告としては合格点以上の結果だと思いますが、今後、このデータ活用社会に向けて、ぜひこういった自治体における計画の評価においては、データ分析をより一層深めていただきたいなと思えます。

次に、使用済み紙おむつ回収の事業について、保育士さんと保護者さんとのところがありました。これもぜひ数値的な達成度に加えて保育士さん、あるいは保護者の皆様がこの事業をどう感じられたかっていうところを取りまとめただけるとよいと思えます。そこからさらに保育士さん、保護者ともに安心して育てられる子育て環境って何なんだろうか、安心して保育士さんが働ける環境って何なんだろうかというところを含めて、新しい何かアイデアが生まれてくるといいなと感じましたので、その数字の裏側に潜む定性的な部分の拾い上げっていうのぜひ加えていただければいいなと思えます。

それから、学校給食の事業については大変事業費が大きいものでございました。当然ですけども、大変有効に機能していることだと思いますけれども、これだけかけたその事業についての稼働状況の見える化みたいなのところも、すぐには難しいかもしれませんが、どんな形で見せられるかということもお考えいただけるといいのかなと思えました。

それから中小企業の応援事業に関しましても、先ほど少し話がありましたけれども、コロナ禍における事業転換というのはやむを得ずというところだったと思いますが、その創業の中で、やはりイノベーションとよく言われるようなこれまでなかった新しいサービスとか新しい技術とか、この安城市からもそういったイノベーションが感じられるような事業が生まれてくるような、皆さんそれは期待されていると思えますけれども、それにはどうしたらいいかっていうところを含めてお考えいただけるといいのかなと思えます。

それからプレミアム商品券につきましても、これも各自治体でいろいろな商品券が数年前から動いていますが、ぜひその利用者のデータ分析をできる範囲で結構ですので、やっていただいて、それを事業者さん、あるいは市民の皆さんにフィードバックできるような体制をできるところから作っていただけるとよろしいかなと思えました。

それから、ケンサチ e フェス事業について、ぜひこの e スポーツを安城市の中で今後どうしていくのかっていうところを特に若い職員の皆さん、あるいは若い市民の皆さんも交えて考えていただきたいなと思えます。

それから、都市開発関係の南明治地区のお話が今日ありましたけれども、それに加えて市長さんから冒頭お話がありましたようなアリーナでありますとか大型商業施設などについて、こういう新しい安城市で生まれる大きな都市計画の中で、ぜひお願いしたいのはデジタル社会にふさわしい 21 世紀型の ICT を活用した都市計画、あるいは都市計画をみんなで考える仕組み、そういったものをぜひ考えていただいて、そして新しくできた大型施設の

中に、さすが21世紀の新しい施設だよねと思えるような仕掛けをぜひお考えいただきたいなと感じました。

それから、安城市を住みよいと感じる人の割合というのが若干下がってるというところは多分、市役所の皆さんも感じられてるとこかなと思いますが、ここの分析をやっていたきたいなと思っております。

全ての事業について、さまざまな分析をされていますが、先ほど申し上げましたように、やはりデータ分析がちょっとまだ十分じゃないかなというのが率直な感想でありますので、量的な評価に加えて質的な評価、そこから特筆すべき良いケースを浮かび上がらせていけるとよろしいかなと思います。

最後に、近藤委員のほうからご指摘ありましたように、市民参加によってこういった計画をどう盛り上げていけるかという視点も大変重要だと思っております、パブコメももちろんあると思いますが、それに加えてどんなことができるのか、特に若い世代、Z世代の皆さんに市が考える未来像というものをどう伝えていけるのかというところも今後お考えいただけるとよろしいかなと思いました。

【鈴木健司委員】

全体的なところで、この総合計画と総合戦略を組み合わせたいところは非常に上手にされているなと思いました。ただ、それがために国の考え方と安城市の考え方とやはりちょっと違うと思うんですね。そのすり合わせが非常に大変だったと思いますが、その結果、非常にわかりやすく、他の団体だとばらばらになっていますので、そういう意味で非常に上手に作成されたのかなと思います。

とはいえ、それをした結果として、アウトカム指標が非常に把握しづらくなってしまったのかなというところがあります。アウトカム指標は、いいまちになってますかとかそういう割合などで測るといって非常に多くございますが、これだと実はPDCAを回せないところがあって、どこがよかったのか、どこが悪かったのかというところがちょっとわかりづらくなる面もあります。先ほど安田委員がコメントされてましたように、もう少しちょっとデータ分析なり、分析というところが今後必要になるのかなということです。そういうアウトカム指標で改善したというのが非常に素晴らしいことだし、安城市も頑張って改善されてるなと思うんですが、市民にどう伝えるのか、市民にとってどうなのかというところが非常に重要なことかと思えます。

私が過去にちょっと調べたところで、アメリカの方で自治体がやっている総合計画の評価ですが、手続の電子化を進めたことによって市民の手続の回数が何回から何回に減りましたというような表記をしていて、アメリカではそういうところでわかりやすくすることが特徴かもしれませんが、アウトカム指標のところこういうふうに削減できたので、市民の方にとってもこれだけ節減できましたとか、そういう情報を加えていただくと非常にわかりやすいと思いますし、市長を始めとして政策をやった結果として、こういうふうなことが言えたと非常にアピールできると思いますので、そういう意味でももっと検討し

ていただければと思います。

【加藤研一会長】

はい、ありがとうございます。

先ほど、安田委員の方から住みよいと感じる割合というお話がございましたが、私も町内会関係でございまして、私どもの集落は基本的に市街化調整区域なので、新たな宅地はないんです。ただ、工場の跡地とか、大きい敷地で余裕のある方が分譲されるというケースは年に何件かございます。

そういった土地に市外から新しくいらっしゃった方にお話を聞くと、本当にいいところですねって言ってもらえるので、町内会長という立場としてありがたいなと思っています。安城市の魅力は大きいと思いますので、農地を守るということももちろん大事ですけれども、そういった新たな住民が増えるような施策も引き続き進めていただけると、ますます人口も増えるし、いいまちになっていくのかなというふうに思っております。

それでは、本日の議題は以上でございます。事務局にマイクをお返しします。

5 その他

【事務局】

長時間の会議でお疲れのこととは存じますが、もうしばらくお時間を頂戴したいと思います。お手元に資料をお配りしております、SDGs 未来都市について、ご報告をさせていただきますと思います。

(事務局説明)

【事務局】

もう一点、事務連絡をさせていただきます。次回審議会は令和4年11月18日(金)です。時間、場所は後日通知させていただきます。

以上をもちまして、令和4年度第1回安城市総合計画審議会を終了いたします。委員の皆様、本日はありがとうございました。